

## 平成26年第4回定例会（12月）一般質問

### （5）保育所増築事業(花の里保育園増改築工事実施設計業務)について

○ 議員 宮下 裕美子 5点目の質問に入ります。(1)から(3)まで一括して質問させていただくため、最初の説明が長くなりますが、答弁もれのないようお答えいただきたいと思います。保育所増築事業(花の里保育園増改築工事実施設計業務)についてです。今ある花の里保育園を認定こども園にする場合、定員も増えることから施設の増設が必要であることは、当初から話題になっていました。その際、町側から「保育所の床面積はほぼ基準を満たしているので、大がかりな増築工事は必要ないだろう。ただ、保育室等は不足しているので、仕切りなどを変更する工事は必要かもしれない。」という説明がありました。その点は議会も納得して物事が進んでいったと認識しています。しかし、11月27日の臨時会に提案された保育所増設事業(花の里保育園増改築工事実施設計業務)は、当初の説明とかけ離れた印象を受けました。また、補正予算が提案されるまでの進め方についても、疑問を持っています。そこで、認定こども園開設に向けた保育所増設事業について、課題を整理するために3つの項目に分けましたので、それぞれに対してお答えいただきたいと思います。

1点目、手順について、基本設計などの増築内容が前回の場合、全く示されないまま、先の臨時会に唐突に提出された実施設計の補正予算ですが、議会や保護者との協議手順を本来は経た上で実施設計の予算が組まれるものであると考えます。その点で、十分な議論がなされてなく手順をないがしろにしていると感じました。実施設計を議会に諮るまでに、どのような手順でこの事業を進めてきたのか。また、今後はどのように進めていくのか。それから、保護者との協議やスケジュールを含めて伺いたいと思います。

2点目、本体工事について、当初の説明では「大規模な工事はしないで済むだろう」とのことだったが、今回、概算で1億円という数字が出されました。なぜこれほど高額になるのか。どの部分が当初の予定と違ってきたのか。また、町では建設費を抑えるためにどのような検討をしてきたのか。具体的に伺いたいと思います。

3点目、工事の影響です。これまでの説明では「保育に配慮することを前提に、工事は日曜・祝日・夜間に行う」と言っていました。これだけ大規模な工事を行うとなれば、果たして夜間等の工事だけで間に合うのか。また、工事現場と保育現場が混在する状態で、園児の安全や健全な保育環境を維持・確保できるのか。さらに、夜間工事の際に、隣接する愛光園利用者への影響は十分検討されているのか。この3点について、お伺いいたします。

○ 議長 笹木 英二 町長

○ 町長 櫻庭 誠二 先ほどの質問で基本設計について言われましたが、大きな建物を更地から建てる場合は、基本設計をやるということですが、今回、うちの町は基本設計をしておりません。いきなり実施設計ということで、この中で基本設計内容を全く説明されていないということですが、元々、基本設計は持っていませんでしたので、それは了解いただきたいと思います。また、どのような手順でこの事業を進めてきたのかということですが、基本的には質問のとおり一部改修というかたちで進めようと考えていたのは事実であり、そのような説明をしていたのも事実であります。ただ、ここにきて月形町認定こども園開設準備委員会幹事会で、妹背牛町、奈井江町、大麻幼稚園まんまる保育園の視察、花の里保育園と大谷幼稚園の合同保育を参考として検討した結果、準備委員会幹事会では、保育室の確保、トイレの増設、厨房スペースの拡張、事務室、玄関の拡張、収納スペースの確保ということで、収納スペースは、当時はバラックで外部に建てる予定でしたが、一体的にした方がいいということで変更になりました。また、駐車場、グラウンドについても、保護者、子どもたちの数が増えるという意味では、拡張が必要であるということで、準備委員会幹事会での議論を中心として考えていったというのが実際のところであります。今までの経過を説明してほしいということで、7月30日、準備委員会幹事会で妹背牛町と奈井江町に視察に行きました。8月20日、教育委員会、保健福祉課、産業課職員により現地確認、保育所建物、駐車場、グラウンド、保育所からの要望等々の調査を行ったところです。8月26日、保育所において第1回合同保育の実施、玄関、トイレ、厨房、事務室の拡幅等合同保育をしながら確認をしたところでもあります。10月20日、準備委員会幹事会において施設改修案の協議をしたところでもあります。10月30日、認定こども園大麻幼稚園まんまる保育園の視察を行ったところでもあります。10月31日、工事概要の協議ということで副町長、総務課長、産業課、教育委員会、保健福祉課で協議をして、11月14日、総合振興計画実施ヒヤリン

グにおいて、私も含めて今後の保育所を考えたとき、花の里保育園は平成10年に建設した保育所ですから、すでに16年経過している状況で、これから20年、30年先を考えたときに、この機会にしっかり改修をやっていくことが将来の保育環境として貴重ではないかと判断して11月27日、臨時会を開催して、ご承認いただき、12月5日、実施設計の業務入札を行ったというのが、今までの流れであります。2点目の「大規模な工事をしないで済むだろう。」とのことだったが、今回、概算で1億円という数字が出されたということですが、これらについては、前回の臨時会で副町長に概算でいいから数字を示してほしいということで、概算の概算数字ですので、これが確定と扱われては困るところで、これよりも高くなる可能性もあるし、安くなる可能性もあることを承知いただきたいと思います。先ほども言ったとおり、当初のもくろみとは違ったということは、間違いのないことです。これからの保育環境が先ほどの一般質問にもありましたとおり、「まち・ひと・しごと」ということでのうちの町の人口減少をどのように食い止めるかということで、認定こども園の施設の充実が子どもを持った親が月形町に住んでいただける極めて大きな条件の一つになってくることを考えたとき、もちろん、言葉足らずで今までの説明が足りなかったことはお詫びしますが、これからのうちの町の少子化対策そして若い方に定住してもらおうということでは、せっかく工事をするなら今の状況で20年、30年しっかりした良い施設であるというものを作りたいという思いでヒヤリングでも部下に指示を出したところあります。3点目の工事の影響ということですが、これについても最初は小規模改修ということで、夜間もしくは祭日ということになるべく保育に影響がないようなかたちで協議をするということで、皆さんに説明していたのは事実であります。今後、実施設計の内容を見なければ分かりませんが、それでは済まない可能性もあるだろうと感じているところです。工事内容によって一時的には公共施設を利用して保育する状況も今後、考えられるので、実施設計の内容を見ながら、その部分で父兄の皆さんにも了解いただく。それから、実施設計の状況で議会議員の皆さんにももう一度、しっかり説明して行きたいと考えているところであります。

○ 議長 笹木 英二 幅広い質問で答弁もれがあっては困るので、今、聞いていて、1点目の手順のところで保護者との協議はどのようになっているのか。今、どこが当初の予定と違ったのかということも説明願います。

○ 議長 笹木 英二 町長

○ 町長 櫻庭 誠二 最初に説明したとおり、保育室の確保ということは、臨時議会で申し上げたとおり一時保育の保育室が今までの計画では、一時保育についても当該年齢の子どもたちの所で一緒に保育する方針でしたが、それは違うということで、一時保育については通年保育と違うから一時保育だけでやった方がいいということで、保育室の確保ということは、うたわせていただきました。トイレについても合同保育をする状況でトイレの数が足りないということが分かったので、トイレについては増設する。厨房スペースの拡張については、経年していて厨房機器も古くなっているので、それも含めてもう一度、厨房スペースを広げた方がいいという結果、事務室が隣接していますので、事務室もずらさなければならない、事務室はそれほど広げるわけではないですが、玄関側に出てくるということがあります。先ほど説明したとおり、収納スペースについては、当初の予定はバラックで本体とは別棟と考えていましたが、これから20年、30年先を考えたとき、一連の施設の方が使い勝手がいいということで、収納スペースが増えたということです。玄関については、合同保育を行ったときに、子どもたちの靴収納スペースが、子どもが増えることで、どうしても足りないということで、先ほど言った駐車場、グラウンドについても、愛光園側にある遊具施設を今の状況ではずらさなければならないということでは、それぞれグラウンドももう一度、見直しをして、拡張できる所まで拡張する。駐車場スペースについても、もう少し多くなれないか考えているところで、当初、説明したことと違うところであります。

○ 議長 笹木 英二 宮下裕美子君

○ 議員 宮下 裕美子 答弁もれがあります。保護者との協議は、今まで行っていないという説明があったのですが、保護者との今後のスケジュールを伺いたい。

○ 議長 笹木 英二 町長

○ 町長 櫻庭 誠二 実施計画が出来上がった段階で、具体的なものが見えてきますので、そこで保護者の皆さんに協力いただかなければならないこともありますので、そこで説明したいと思っています。先ほど説明したとおり、公共施設で一時的保育をやるということになれば、保護者の皆さんの理解をいただかなければならないので、そのことについての説明は、しっかりやって行きたいと思っています。

○ 議長 笹木 英二 宮下裕美子君

○ 議員 宮下 裕美子 今、ざっと説明を聞いていて、色々、疑問が湧いてきたのですが、基本設計を出さないということで、新築以外の所は基本設計を元々持たないというのは、行政は本当にそのようなやり方ですか。概算で1億円も掛けてかなり大がかりなものであるのに、いきなり実施設計ということは、実施設計した後でも変更は可能なのか、聞きたいところです。実施設計後に変更が可能という設計の仕方だったら、それで構いませんが、これだけ大掛かりな工事をするということは、相当、様々なところに配慮も必要なのに、基本的に準備委員会幹事会だけで決めてしまい、実施設計、工事の一步手前のところまで行くことがとても考えられないので、実施設計の変更は、これから可能なのか、お聞きします。それから、色々、検討して色々な所を見てきたことは十分に分かります。経年劣化があることも理解します。10年後、20年後先を見据えて今回、改修をしっかりとっていくということも理解できるのですが、その前にうちの町の少子化、人口減という現実も忘れてはいけなないことであると思います。人口減少をどのように食い止めるかということで、認定こども園の施設の充実ということは理解できますが、今回、キャパシティを大きくするという事は、少なくとも今、設計している80人ですえも実は多いかもしれない。現在、花の里保育園は定員40人で49人受け入れているようで、2割増しのところまで十分に受け入れられるのであれば、うちの町の子どもの人口から考えて、最大入れたとしても70人の定員、2割増しで足りると思うし、今後、爆発的に子どもの数が増えるというのは、日本の状況からも考えられない。今が最大限なのです。それなのに今の延べ床面積は一般的な保育所、認定こども園の要件等を満たしても相当、広いわけです。例えば保育室を外側に張り出して延べ床面積170平方メートル増築するということでしたが、25%増えるということは、光熱費などの固定費も単純計算で25%増しになるわけですから、外見は変えないで中身の仕切りを改善する、より良いものに改造することの方が同じお金を掛けるのであれば、将来的なランニングコストを考えたとき重要ではないかと考えます。厨房やトイレの狭さについては、前から気になっていたもので、その増築は考えていましたが、保育室やその中の仕切りについては、面積的に問題がないということも前からされていたので、そういう意味では、検討する余地があるのではないかと。特に幹事会は実際に保育されている花の里保育園園長、幼稚園の先生が中心で、役所もいますが、基本的により良い方であればこれもあった方がいいということは、どんどん出やすいと思いますが、この中でしっかりやって

いくにはどうしたらいいかということがなければ、部屋ももう一つほしい。こっちもたくさんほしいとなるのは当然のことなので、そういう意味で、そこは議会が財源も含めてきっちり検討して、全体の設計が十分可能なのか、きちんとしているのかということを検討しなければいけないので、今、この段階で何の検討もなしに実施設計がすぐに入札も行われたということで、そこも含めて今後、設計の変更や今、言ったランニングコストに関してどのように考えているのか、お伺いします。それから、工事に関して言えば、この工事どう考えても日曜・祭日・夜間に行くことはできないと思うのですが、そうならば公共施設を使うことももちろん視野に入れていると思いますが、その際、公共施設はそのまま保育には使えないので、そちらの部分の改築も多少、手入れなど必要であると思うので、その場合の提案ですが、例えば大谷幼稚園の夏休み期間に大谷幼稚園を借り上げて、3歳児以上の保育に使う。乳幼児については、体育館旧教育長室はほとんど使われていない会議室なので、近くにシャワールームや水まわりのものがたくさんあり、多少は改築することでできると思います。だから既存の施設を十分に活用して多少の手を入れながら、分散して保育することにより、できるだけ工事と子どもたちの保育を切り離して、短期間で工事が終わるようにして、本来の工事経費を削減する必要があると考えます。それらのことは、工事経費1億円と非常にびっくりしたのは、花の里保育園を新築で建てたとき2億7,000万円の予算だったので、今度は1億円の建物になるということで、できるだけ予算は切り詰めてやっていただきたいし、先ほど言ったように過大投資にならないような工夫も必要だと思います。いくつか言いましたが、町長のお考えをお願いしたいと思います。

○ 議長 笹木 英二 町長

○ 町長 櫻庭 誠二 基本設計と実施設計については、副町長から説明したいと思います。また、準備委員会幹事会で仕事をしていく人間だけの要求を丸のみして職員として検討したのかということですが、先ほど説明したとおり、8月20日、教育委員会、保健福祉課、産業課職員による現地確認、保育所建物、駐車場、グラウンド、保育所からの要望ということで、確認を行っているところです。その後、10月31日、工事概要の協議については、副町長、総務課長、産業課、教育委員会、保健福祉課で協議をして、その中でももちろん私たちはこれから少子化の中で無駄な投資をしてはいけないことは、重々、承知してやっているところです。また、平成10年に建てて2億7,000万円だ

った物に1億円を入れていいのかということですが、今、建築資材の高騰等を考えると今、同様の施設は5億円では建たないと感じているところですが、そういう意味では、あの施設はたぶん廃止する状況になったら補助金返還等色々出てくるのでできないですが、やはり、新築で建てるより1億円掛けても今の状況でやっていくことの今後における少子高齢化の中での父兄の皆さん、子どもを持った人たちに対する期待にそぐわない工事にしたいと考えていますので、それはお願いしたいと思っています。実施設計段階で変更ができるのかということですが、かなり厳しいということは聞いていますが、これらについても機会を設けながら議員の皆さんにもしっかりと、もう一度、意見をいただきたいと考えております。

○ 議長 笹木 英二 副町長

○ 副町長 三浦 淳 基本設計と実施設計の違いですが、基本設計は、たぶんこの保育所を新たに建てる時には基本設計、ガイドプランを持たなければダメであると思いますが、今回は改修ですから、それを実施設計でいきなりもっていったということで、図面と当時の建築基準を満たす構造計算書と今は多少変わってきているかもしれませんが、それを持ち合わせていますので、それを使って実施設計ということで、今回、発注させていただいています。それから、工事の中身については、実施設計を発注しましたので、これから実施設計業者また我々職員、花の里保育園の職員と色々なプランができ上がってくると思いますが、必要最小限のプランの改修で行きたいと考えております。それと、ある程度、図面が出来上がってその工程管理をどうしていくか、これについても、その中で盛り込んで行きたいと思っています。そのプランがある程度、出来上がってから議会やご父兄の方々に相談して、実施して行きたいと考えております。町長が答弁したようにどうしても工程的にはその場所がということはあるかもしれませんが。そのようなときには先ほど町長が答弁したように、一部、違う公共施設を使うことがあるかもしれませんが、あまり分散してしまうと職員数も限りがありますので、それについても今後、打ち合わせをさせていただき、進めて行きたいと考えていますので、ご理解を賜りたいと思います。

○ 議長 笹木 英二 先ほど増築によるランニングコストの質問の答弁がないことと、代替施設による安全、安心な工事としてどのような考えがあるのか。

○ 議長 笹木 英二 町長

○ 町長 櫻庭 誠二 先ほど申し上げたとおり、公共施設を代替施設として保育に使うことは了解を願いますが、議員の提案の中で大谷幼稚園の夏季における使用はどうかということですが、これについて即答できないということです。それから、増築によるランニングコストについては、今の状況で極端な電気料、光熱費が上がるとは考えられないことですし、今はLED化になっていませんので、そういう部分について環境に配慮していくということでは、しっかりやって行かなければならないと考えています。ランニングコスト的に今、言った説明で約30坪ですが、それらの増設が大きく維持管理に跳ね返るということは、考えておりません。

○ 議長 笹木 英二 宮下裕美子君

○ 議員 宮下 裕美子 今、30坪の増築ということでしたが、170平方メートルとこの前聞いていたのですが、実際の数字はどのようなのか。

○ 議長 笹木 英二 町長

○ 町長 櫻庭 誠二 申し訳ありません。約60坪でした。

○ 議長 笹木 英二 宮下裕美子君

○ 議員 宮下 裕美子 60坪ということは、元々の花の里保育園の面積は700平方メートルで、今回170平方メートルの増築ですから、新たに25%ぐらい面積が増えるわけですが、光熱費がそんなに変わらないことはあり得ないと思います。やはり、箱が大きくなれば広がりますので、それも含めて、コスト減の検討はどうされているのかということは、今の答弁ではなかったもので、より良い保育という面で色々と検討したという説明はされていましたが、一方、やはり町としてお金を掛けるのだから、コストもある程度、できる範囲という基本的な姿勢はやはりあるわけです。いくらでも際限なく掛けていくわけではないので、そういう意味で、コスト減の検討はどんなことをされてきたのか。そういう意味では工事期間の短縮が一番のコスト減になると思うので、そういう意味では、はなから日曜・祭日・夜間ということより、短期集中の工事に特可する方向にいくという説明があってもいいと思います。設置面積も含めてもっと本来は広がったのが、これぐらいになったなど、何かコスト減の検討をしたことについて、もう一度、お伺いしたいと思います。

○ 議長 笹木 英二 副町長

○ 副町長 三浦 淳 今、コスト減ということを言われましたが、先ほどから申し上げているとおり、実施設計を発注したばかりですから、それも踏まえながらこれから検討を加えさせていただきたいと思いますので、ご理解願



たいと思います。それから、本当は平日もどんどん工事ができればいいのですが、保育所ですから当然、北海道の認可を受けてやっていますので、細かなところとして厨房を変えるのですが、厨房を違う所、委託業者にお願いして配食してもらうという検討も加えています。これも各回、道と相談しながら進めていくということで、工事も同じように将来、このようなかたちでということで、北海道と協議しながら進めていくということです。その中で良い、悪い、許可される、許可されないものもあると思いますので、それも踏まえて今後、内部で協議して行きたいと考えていますので、宜しくお願いいたします。

○ 議長 笹木 英二 宮下裕美子君

○ 議員 宮下 裕美子 もう実施設計が進んで全ては実施設計が示されない限り私たち検討する余地もないみたいですし、また、保護者に対しての説明も実施設計ができて協力を取り付けるという段階になって初めてそのことも示されるようなので、せっかく認定こども園にして保育所が増設してより良い保護者にも理解を得て、いい保育所になるようにがんばるといふなら、保護者あるいは議会も交えて丁寧に説明を繰り返しながら、夢をみんなで描くようにしながら認定こども園までもっていったら、もう少し、話もうまく進むのかなという感じがします。今、内部協議や幹事会での検討が優先されてそれ以外のところに対する説明、あるいは実施設計ができてしまったら先ほど設計変更は厳しいという段階なのに、周りの意見を全然、聞かないで物事を進めていくということが、今の行政の進める方向としては、非常に残念に思います。それと、やっぱり、少子化のために何とかしたいと言われる町長の気持ちも分かりますが、箱が非常に充実することも一つのこともかもしれませんが、ソフト部分の充実さは非常に重要で、箱に相当お金が掛かるとなると、逆にソフトの部分まで廻していくのもまた一つお金も掛かってなかなか難しい。今回、来年度に関して言うと、内内的な協議の中で保育料を3割削減するという話が既に出ていて、そういう意味で、経費の増大も一つあるわけです。それに今回、1億円ぐらいの工事費が加算され、その支払いもあります。運営そのものも年間1億円ぐらいは掛かる。そういうことで、様々なお金が掛かる認定こども園事業が、もう少し、開かれたもので皆さんと理解を得ながら進められたらいいなと思っていますので、ぜひ、町長には今後、様々な場所を利用して進捗状況、情報を保護者あるいは議会に伝えていただきたいと思いますが、そこだけ確認させてください。

- 議長 笹木 英二 町長
- 町長 櫻庭 誠二 今の宮下議員の質問で、夢ある保育園、夢はしっかり語れる保育園、これについては極めて重要なことであると思っています。その部分で私たちが対応で気づかなかったところ、対応が足りなかつたところについては、これからもご指導願いたいと思っています。
- 議長 笹木 英二 宮下裕美子君
- 議員 宮下 裕美子 了解しました。